

第2回協議会での委員意見に係る第2期計画修正案への反映状況について

番号	委員氏名	委員発言	反映結果	反映内容
①	岩手県立大学名誉教授 渋谷 委員（座長）	・韓国、中国、東南アジア由来の海岸漂着物等が確認されている。日本海側よりは少ないが漂着している事実があり、津軽海峡を超えて、南下したものと推測される。将来、近隣県と連携しながら、 <u>対策を打つ必要がある</u> と思料される。	反映し、第2期計画期間中の進捗を踏まえ検討する	・国外由来の海岸漂着物等への対応に関し、「 国に対して当該発生国での対策を進めるよう要請します 」と記載します（P38）。 なお、現時点で海外由来の海岸漂着物等に特化した対策は第2期計画で明記しませんが、令和5年度以降の海岸漂着物等の回収・処理の状況を踏まえ、必要な対策を講じていきます。 ・現計画でも、国の役割として「周辺国から漂着した廃棄物については、漂着状況の把握を行うとともに、関係国に対して原因究明や防止対策の実施を強く要請する」と明記しています（P45）。
②		・海岸漂着物等の対策について、沿岸部では理解が深まっているが、内陸側の協力を得ることが重要と感じている。	反映する	・内陸部を含めた対策が必要であることの理解を促すため、 海岸漂着物等の発生経緯が分かるようなポンチ絵を追加します（P32） 。
③		・マイクロプラスチックの対応を検討いただきたい。衣類の洗濯時にマイクロファイバーが出るなど、 <u>身近なところで川を通じて毎日海に流れていることがわかりやすい</u> 。そのような例示を出すのがよい。	反映する	・マイクロプラスチックの発生経緯について、特に 日常生活を営む上でもマイクロプラスチックが発生していることを示すコラムを追加することとします（P33） 。
④	一般社団法人いわて流域ネットワーク 内田委員	・海は世界とつながっており、私たちが出したごみが世界につながっているということも触れるべき。 ・県外の事例だが、海岸に漂着するプラスチックごみの経年変化としてレジ袋が減ったという報告がある。自分のこととして気遣うことができる、一人ひとりが意識できるよう、 <u>プラスチックごみの詳細な傾向等を示してほしい</u> 。	反映する	・左記のような概要が分かるように ポンチ絵を追加します（P32） 。また、そのポンチ絵の解説に「海のごみベルト」などの解説を追加します。 ・令和2年度から令和4年度の漂着ごみの組成のうち、 プラスチック類の内容と傾向を追記しました。個数ベースでは生活系のごみが見受けられるとの内容を記載しています（P18） 。
⑤		・身近な川が海につながっているという説明が必要であるが、計画上の河川流域図は県内で完結する図となっている。馬淵川、米代川など県外とつながっている河川が海まで流れているという 流域図を追加する必要がある 。	反映する	・ 県外に流れる北上川、馬淵川、米代川（1級河川）の流域図を追加しました（P7） 。
⑥		・環境アドバイザー制度では予算上の制約があり、対応できない場合がある。対策を考えていく必要がある。	原案に反映済	・海岸漂着物等対策を進めるための支援体制の強化で反映します。
⑦	全国農業協同組合連合会岩手県連合会 畠山委員	・県内の海洋上でもマイクロプラスチックが確認されたことが報道された。発生抑制策は必要だが、 <u>生じたマイクロプラスチックの対策も進めたい</u> 。	一部反映する	・ マイクロプラスチックの発生経緯をコラムで示し、海洋上のマイクロプラスチックの回収は困難であることから、発生抑制対策の強化が必要であることを示しました（P33） 。 ・発生したマイクロプラスチックの回収体制に関しては、各研究機関で研究が進められており、当該知見の動向を踏まえて必要な対策を検討していきます。
⑧		・担い手育成が課題であると言われている。故郷をきれいにするマンパワーが不足していくことを踏まえた場合、計画に記載されている取組は必要と認識している。計画上では「 仕組みの構築に努める 」との記載だが、「 参画できる仕組みを構築する 」という表現とすべきではないか。	趣旨を踏まえた対応を進める	・県の基本方針は、委員発言と同一です。しかし県予算の制約もあることから、予算措置を含めた意味合いを踏まえて「 努める 」と表記したものです。

第2回協議会での委員意見に係る第2期計画修正案への反映状況について

番号	委員氏名	委員発言	反映結果	反映内容
⑨	岩手県漁業協同組合連合会 後藤委員	・ブルーカーボンの記載に関連した環境学習に取り組んでいただきたい。ごみを拾って干潟を守るということを関連付けて、学習できるように活かしていただきたい。計画途中でも随時検証し、活動が途切れることがないように進めてほしい。	反映する	・海岸漂着物等に係る環境教育に当たっては、ブルーカーボンによる効果などについて工夫して取り上げるよう、コラムに掲載しました（P6）。
⑩	岩手県商工会議所連合会 菊池委員	・プラスチック資源循環促進法の記載に法律番号を明記すること。	反映する	・明記しました（P3）。
⑪	岩手県商工会連合会 熊谷委員	・スマートフォンを活用した県民参加型の取組を進めるとしているが、発信するだけでなく、企業も社会貢献のために活用できることから、出来るだけ広く皆さんに周知いただけるようにして欲しい。	趣旨を踏まえた対応を進める	・委員意見を踏まえた対応を進めてまいります。
⑫		・海洋ごみは内陸部からも海に来るというようにわかりやすいポンチ図があるとわかりやすい。	反映する	・内陸部を含めた対策が必要であることの理解を促すため、海岸漂着物等の発生経緯が分かるようなポンチ絵を追加します（P32）。
⑬	特定非営利活動法人浄土ヶ浜ネイチャーガイド 菅原委員	・海の汚染に関しても世界的な統一的な数値（目標値）があればよいと考える。何等かの目標がないといけなと考えている。	今後の課題とする	・委員の御発言は、二酸化炭素排出の抑制（地球温暖化防止対策）と同様に、海洋ごみ対策でも世界の共通目標を構築できるようにすべきとの意見でした。世界共通の課題として海岸漂着物等対策が進むよう、本県でも努めてまいります。
⑭	海上保安庁釜石海上保安部 工藤委員	・海岸漂着物等に係る幼稚園・保育園等を訪問しての啓発活動等について、他の皆様との連携・協力が必要と認識している。	原案に反映済	・関係機関との役割分担・連携の在り方として原案に含まれるものと解します。
⑮	久慈市生活環境課 吉田委員	・市町村として抱える課題の1つとして、ごみへの意識が低い方への対策である。県民意識の底上げが重要と考える。	趣旨を踏まえた対応を進める	・ごみへの意識が低い方への対応に関し、モラル向上に努めるとともに、ごみを投げないことが環境美化につながるということ、ナッジ理論などを活用しながら主体性を持てるアプローチ手法を検討し、今後の普及啓発活動に活かしていきます。